



会社概要

OCHABI(学校法人服部学園)は、「世界に文化で貢献する」ことを理念に1955年に創立されました。設立当初から一貫して日本におけるアート、デザイン教育の一翼を担っています。2つの学校とアートジムの擁し、年齢や経験の有無を超えて、幅広い人々がアートやデザイン力を養えるよう社会に開かれた教育機関として、さまざまな活動を行っています。

業種

教育機関

課題

- ・無償アンチウイルスソフトを使用する Windows 端末のセキュリティ強化
- ・授業で利用する Mac のセキュリティ対策の実施
- ・個々のユーザーに任せていたセキュリティ環境の一元管理の実施

環境

Windows XP Professional (SP3)
Mac OS X

カスペルスキーのソリューション

Kaspersky® Work Space Security
- Kaspersky® Anti - Virus for Windows Workstation
- Kaspersky® Endpoint Security for Mac
- Kaspersky® Administration Kit

結果

- ・WindowsとMacの混在環境におけるエンドポイントセキュリティ強化の実現
- ・両環境の一元管理による最新のセキュリティ状況の維持

ケーススタディ | OCHABI (学校法人服部学園)

WindowsとMacの混在環境のセキュリティ対策にKaspersky Work Space Securityを導入。セキュリティ状況の可視化により最新環境の維持を実現

デザイン・アート界に多くの著名な人材を輩出しているOCHABIは、1955年の設立以来、「世界に文化で貢献する」ことを理念とした美術教育により、柔軟な発想の大切さと「文化」の可能性を現代の若者に伝えている。

OCHABIには、御茶の水美術学院と御茶の水美術専門学校の2つの学校と「アートジム」がある。御茶の水美術学院は東京芸術大学や美術大学、美術高校受験のための予備校御茶の水美術専門学校は社会や企業で活躍できるデザイン・アートの即戦力を養う専門学校、アートジムはデザインやアートに興味を持つ一般人、社会人を対象としたワークショップである。

「これら3つのカテゴリで共通的な素養がデッサンです。美大受験の重要な課題でありアートの基礎ですが、単に素描というだけでなく、企画や設計図などにも通じ、コミュニケーション手段でもあります。文字中心のコミュニケーションで識字率が重要であるように、デッサンによるコミュニケーション促進のためには“識画率”を高めることが大切です」(企画広報部長清水真氏)と、デッサン力向上に努める背景を述べる。そうしたデッサン力を広くコミュニケーション活動に活かしてもらうために、一般の人のデッサン投稿サイト「デッサン塾」を立ち上げや、全国の美術を愛好する高校生を対象とした発表の場「デッサン甲子園」などの企画・実施をしている。

こうしたWebを活用したイベントやトレーニングをはじめ、グラフィックデザイン、映像制作などにおいて、今やコンピュータも必要不可欠なツールとなっている。OCHABIでは、現在約150台のMac PCを導入し、授業や生徒の作品制作に自由に利用できるようになっている。

セキュリティ上の課題

OCHABIでは、約150台のMac PCの他、職員や講師用のWindows PCを65台運用している。Windowsについては以前から無償のクライアントセキュリティソフト(アンチウイルス)を利用していたが、Macについては特にセキュリティ対策を講じていなかった。「Windows端末の無償アンチウイルスソフトは、けっして十分なセキュリティレベルを確保しているとは言い切れず、講師がカリキュラム作成のためにWebを閲覧しているときにマルウェアの侵入を受けたこともありました。また、Macはそれまでウイルス被害を受けることはなかったものの、台数が一気に増えたこともあり、セキュリティリスクは高まっていました。ウイルス感染によって授業ができなくなることはもちろんですが、外部に被害をもたらすことは学校としての信用にもかかわるため、きちんと対策すべき状況に来ていました」。情報システム統括東森香織氏は、エンドポイントにおける従来環境のセキュリティ課題をこう振り返る。

ソリューション

こうしたクライアントセキュリティの課題を解決するため、Windowsで使用していたアンチウイルスソフトの入れ替えと、新たにMacへセキュリティソフトを導入することを検討し始めたのが2010年初め。授業用のPCが優先されるため、事務用のPCは古く、スペックが低い機種もあり、パフォーマンスに影響を与える、いわゆる“重いソフト”ではないことが、製品選定において考慮された。

ケーススタディ | OCHABI (学校法人服部学園)



学校法人服部学園
理事 情報システム統括
東森 香織 様



学校法人服部学園
情報システム統括補佐
服部 亮 様



学校法人服部学園
企画広報部長
清水 眞 様

<販売パートナー>
株式会社バリエンテジャパン

<お問い合わせ先>
株式会社カスペルスキー
〒101-0021
東京都千代田区外神田 3-12-8 住友不動産秋葉原ビル7F
<http://www.kaspersky.co.jp>
<http://www.viruslistjp.com>
sales@kaspersky.co.jp

検討の結果、2010年春に導入されたのが、Kaspersky Anti-Virus for Windows Workstationとコンシューマ向けのKaspersky Anti-Virus for Macだ。2011年4月には法人向けのKaspersky Endpoint Security for Macがリリースされたため、同コンポーネントが含まれるKaspersky Work Space Securityに移行し、同時にKaspersky Administration Kitによるセキュリティ運用管理の一元化を実現した。カスペルスキー製品を選んだ理由を情報システム統括補佐服部亮氏は、次のように述べている。

「カスペルスキー製品は説明するだけで容易に操作できることや、PCにパフォーマンス負荷がないことなどの使い勝手の良さ、そしてコストパフォーマンスが優れていた点を評価しました。WindowsとMacの両方のセキュリティ環境を統一したいと考えていたため、Kaspersky Endpoint Security for Macがリリースされたことも選択の大きな要因でした。その後、WindowsとMacの両方のセキュリティ環境を一元管理できることの有用性を認め、Administration Kitの導入に至りました。私たち情報システム担当は、システム管理だけでなく、カリキュラムづくりや教育用ツールとしてコンピュータ活用などの企画が重要な業務。それゆえ、セキュリティの維持やシステムの運用管理負担を極力削減したいと考えており、その点においてもカスペルスキー製品の利点を感じました」。

結論：セキュリティ状況の可視化による最新環境の維持

Kaspersky Work Space Securityの導入によって、従来は対策が講じられていなかったMacのセキュリティ対策が担保されたことが大きい。かつてはMacをターゲットにしたウイルスは非常に少なかったものの、最近ではMac特有の脅威やMacユーザーを狙ったトロイの木馬など多数のマルウェアが出現している。Kaspersky Endpoint Security for Macによって、感染したMacから脅威が学校内全体へ波及することを防止できるようになった。また、Administration Kitにより全端末のセキュリティ環境が可視化できるようになった点も非常に大きな効果だという。

「従来は定義ファイルやセキュリティパッチのアップデートは、職員や講師に実行依頼メールを配信し、実施した旨を返信してもらっていましたが、正しくアップデートされたかは不明でした。また、生徒は作品の制作中にスキャンが始まると中止してしまうことも。Administration Kitで状況が一元的に可視化されるようになり、最新のセキュリティ状況が保てるようになりました。以前のように1台1台をチェックする必要もなく、保守管理に手を煩わせられることもなくなりました」(服部氏)。

OCHABIでは今後、ファイルサーバー類のアンチウイルス対策についてもカスペルスキー製品の導入を検討していくほか、無線LAN環境のセキュリティ強化を図っていく。「デッサンの際に使うモチーフ管理をシステム化し、モチーフの状態管理を保管倉庫で行うとき、あるいは生徒の授業出席管理などにiPad等を利用したいと考えています。また、生徒や非常勤講師などが自分のモバイル端末を安全に自由に使えるよう、無線LANのセキュリティ対策を強化していくことが今後の課題です」(東森氏)と展望する。

ネットワーク構成図

